

初動時医療対策のあり方

(発表：中部ブロックDMAT連絡協議会)

災害医療部会「初動時医療対策のあり方」活動経過

検討機関

東海北陸厚生局、中部ブロックDMAT連絡協議会、中部地方整備局、中部運輸局、中部経済産業局、東海総合通信局
陸上自衛隊第10師団、第四管区海上保安本部、愛知県、岐阜県、静岡県、三重県、東海北陸旅客船協会、中部電力
(株)、日本航空(株)、太平洋フェリー(株)

検討内容

1. 「南海トラフ地震における初動時医療対策あり方」の検討
 - (1) 南海トラフ地震医療被害予測
 - (2) 過去の災害における初動時医療戦略
 - (3) 南海トラフ地震に対する初動時医療戦略
 - (4) 各機関の役割
 - (5) 南海トラフ地震医療戦略具現化に向けて
2. 具現化するための訓練・研修
 - (1) 平成28年度内閣府主催大規模地震時医療活動訓練
 - (2) 第22回日本集団災害医学会学術集会シンポジウム

検討経過

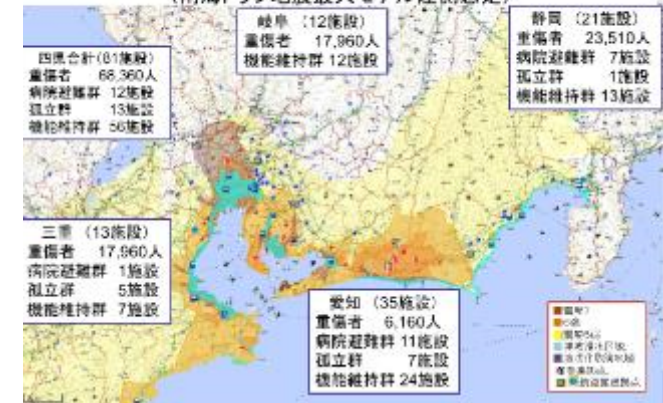
- 1 災害医療部会の開催
 - (1) 第1回災害医療部会
 - ① 日時: 平成28年4月26日15:00～18:00
 - ② 場所: 名古屋合同庁舎第3号館7階会議室
 - (2) 第2回災害医療部会
 - ① 日時: 平成28年7月15日13:00～15:00
 - ② 場所: 名古屋合同庁舎第3号館7階会議室
 - (3) 第3回災害医療部会
 - ① 日時: 平成28年11月21日13:00～15:00
 - ② 場所: 愛知県東大手庁舎4階402会議室
- 2 大規模地震時医療活動訓練
 - (1) 日にち: 平成28年8月6日
 - (2) 場所: 静岡県、愛知県、三重県

南海トラフ地震における初動時医療対策のあり方の検討結果

被害予測

- 三県の被害は甚大でかつ広域化となり、隣県の岐阜県も被害を生じている。
- 沿岸部に位置する災害拠点病院は孤立する。
- 大半の施設は震度6強以上の被害を受け、倒壊等の恐れが生じる
- 機能維持した災害拠点病院には数多くの重症者が押し寄せ対応できない。
- ライフラインは壊滅的になり、多くの医療機関の機能が維持できない。
- 支援DMAT、搬送航空機は多くを期待できない
- 現在のDMAT隊数、移動・搬送手段などの医療資源を比べて、重症傷病者数、災害拠点病院被害等の医療ニーズが圧倒的に多い。

重症者数・病院避難対象数と
機能維持が予測される災害拠点病院数
(南海トラフ地震最大モデル陸側想定)



医療戦略

- 被災地域が広域になるため、四県が連携し新たな組織にて病院支援、病院避難、籠城支援、広域医療搬送、地域医療搬送、病院機能維持など被災状況に併せた効率的な医療戦略

(組織体制)

- 中部緊急現地対策本部、東海DMAT調整本部、各DMAT調整本部等の連携
- 被害状況、医療支援者、支給物品等の医療リソースの把握
- 関係機関と連携した医療戦略の調整

(DMATの投入)

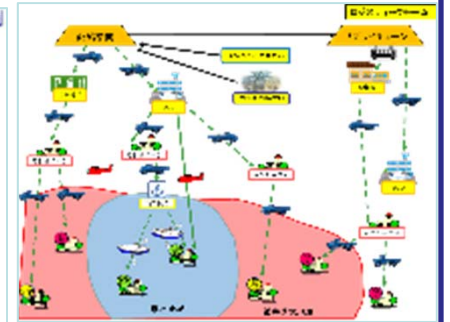
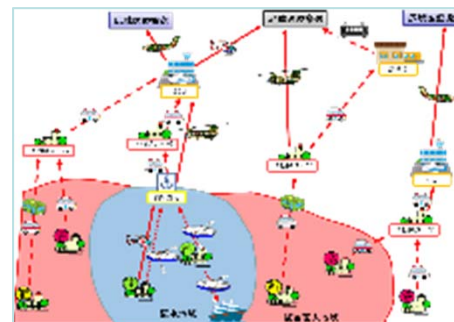
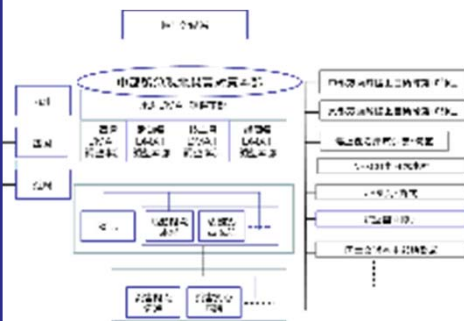
- 病院被害状況に応じたDMATの分配
- 航空機、車両、ボート等を利用したDMAT投入
- 病院支援、病院避難、籠城支援、SCU等、病院機能維持支援の活動
- 関係機関と連携した道路啓開

(患者搬送)

- ヘリコプターによる地域医療搬送
- 自衛隊機による広域医療搬送
- 民間機による広域医療搬送
- 大型バスによる大量搬送
- 関係機関と連携した道路啓開

(病院機能維持)

- 電力会社、水道事業者、燃料事業者等関係機関と連携した電力、水、燃料補給
- 医薬品業者と連携した医薬品・酸素の配給
- 燃料、水、医薬品、食糧等の医療機関備蓄量の見直し



大規模地震時医療活動訓練

『内閣府 大規模地震時医療活動訓練に参画』

- ◆月日:平成28年8月6日(土)
- ◆場所:中部圏内各所(愛知県自治センター、災害拠点病院、広域搬送拠点臨時医療施設など)
- ◆目的:
南海トラフの地震を想定し、南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画(平成27年3月策定)等に基づく大規模地震時医療活動に関する総合的な実動訓練を実施して、当該活動に係る組織体制の機能と実効性に関する検証を行うとともに、防災関係機関相互の協力の円滑化を図る。
- ◆参加機関:
静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、名古屋市、東海北陸厚生局、国土交通省中部地整局、中部運輸局、中部経産局、東海総合通信局、愛知県警察、消防機関、陸上自衛隊第1、第10、第12師団、航空自衛隊中部航空方面隊、第四管区海上保安本部、日本航空、富士ドリームエアライン、太平洋フェリー、NEXCO中日本、中部電力、DMAT

訓練想定

南海トラフ地震最大モデル陸側、津波1ケース

- ◆発生日時:平成28年8月6日(土)
- ◆震源地:和歌山県南方沖
- ◆地震規模:マグニチュード9.1
- ◆最大震度:震度7



DMAT調整本部 参集状況



医療活動、道の駅前線拠点

訓練内容

- 関係機関との連携
- 被災状況の確認
- 情報連絡体制の確立
- 医療戦略の判断
- 搬送優先順位
- 搬送手段の確保
- 医療後方支援の確立

29年度の災害医療部会活動計画

「南海トラフ地震における初動時医療対策のあり方」の具現化

医療機能維持のための具体的事前計画の作成と検証訓練

1. 住民への医療対策の普及
 - (1) 自主防災組織等を活用した減災対策
 - (2) 地域コミュニティとの連携訓練
2. 医療機能維持のための具体的事前計画
 - (1) 建物構造、ライフライン、食糧、医薬品等の備蓄、拡張病床の把握と病院機能評価
 - (2) 搬送手段の確保
3. 災害連携病院、災害支援病院、避難所・救護所との連携



1. 中部ブロック南海トラフ地震防災推進連絡会広域連携防災訓練
2. DMAT中部ブロック実動訓練
3. 各県総合防災訓練
4. 各県DMAT訓練